

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 1 地産地消や食育を進め、消費者と食・農とのつながりを深めます

○学校給食への県産食材利用促進

【取組】

- ① 文部科学省が定める「学校給食週間」（1/24～30）に合わせ、農産物PR用ツール（R5年度は、主な県産農林水産物や農林水産物統計を紹介するクリアファイル）を作成
- ② 学校給食での県産品利用推進を図るため、県教育委員会や市町と連携して、生産者の出荷情報をデータベース化し、県産食材のマッチングを推進
- ③ 学校給食における県産食材の活用と食育の推進のため、県内の農業関係者や学校給食関係者等を対象とした研修会を開催

【成果】

- ① 農産物PR用ツール配布により、県産農林水産物の認知度向上：
クリアファイル 22,000部（対象：小学1、5年生）
〔 R4：クリアファイル 11,000部（同：小学1年生）
R3：お風呂マット 11,000部（同： 〃 ） 〕
- ② 〔
・学校給食での地元食材の利用拡大
・食材リストデータベースの活用による他の市町での食材利用
活用件数：63件
〔 R4：74件、R3：64件 〕
〕
- ③ 研修会参加者：43人
〔 R4：106人、R3：53人 〕

○食育の推進

【取組】

- ・幼少期の子どもたちに農業や県産農林水産物に興味を持ってもらえるよう、県産農林水産物の学習、生産者や産地との交流、県産農林水産物を使った料理体験等を実施

【成果】

- ・食に対する感謝の気持ちや農業の大切さについて理解促進
〔
・はだか麦収穫体験、収穫したはだか麦を使用した
みそづくり体験 参加者：約40名
・さといもの植え付け体験 参加者：約40名
〕

○生産者と飲食店とのマッチング支援

【取組】

- ・生産者が商談スキルを学ぶセミナーを実施するとともに、生産者がブースを設置し、飲食店担当者が各ブースを巡回する展示会方式による「地産地消マッチング商談会」を実施。

【成果】

- ・生産者商談カスキルアップセミナー 参加者：32名
- ・地産地消マッチング商談会 商談件数：延べ134件
〔 R4：82件 〕
取引件数（予定含む）：延べ24件
〔 R4：21件 〕

【関係事業】

- ・地産地消促進事業費：13,930千円



農産物PR用ツール



はだか麦収穫体験



みそづくり体験



スキルアップセミナー



マッチングメニュー
（きじ肉）

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 2 地域の魅力を活かした多様な交流を促進します

○グリーン・ツーリズムの推進

【取組】

- ① グリーン・ツーリズム体験メニュー登録制度により、県内の農林漁業体験メニューを掘り起こし登録
- ② 「えひめGTナビ」ホームページの活用やパンフレットの発行等により情報発信力を強化

(参考)

- ・えひめGTナビ：
<https://ehime-gtnavi.jp>
- ・オーナー制度：
<http://www.pref.ehime.jp/h35100/chokomaru/index.html>

【成果】

- ①②により、
 - ・体験メニュー登録数：288メニュー
 - ・体験者数：123千人
 - ・売上概算：19,385万円

【関係事業】

- ・農業遺産地域躍動推進事業費：13,530千円



ホームページ
「えひめグリーン・
ツーリズムナビ」

○えひめの農林水産物「ちょこっと体験！まるごと収穫！」 オーナー制度の推進

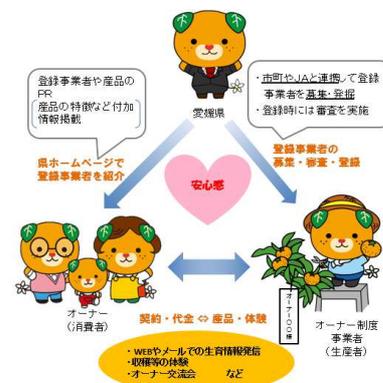
【取組】

- ① オーナー制度登録事業者を市町や関係団体等から広く募集
- ② 県HPで登録生産者の取組内容や申込み先などの情報をはじめ、県担当者による生産物の特徴やおすすめポイントなどを併せて掲載し、県内外へ積極的にPR

【成果】

- ①②により、
 - ・新規に登録された事業者：1件
 - ・契約オーナー数：延べ286組※
 - ・体験者数：延べ757人※
- ※本制度以外の自社オーナー制度による実績も含む

【ゼロ予算事業】



えひめの農林水産物
「ちょこっと体験！
まるごと収穫！」
オーナー制度

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 3 匠の技・郷土料理・文化を次世代に伝承します

○郷土料理の継承

【取組】

- ・地域の食文化の保存や伝承等を目的に、えひめ食文化普及講座を開催

【成果】

- ・小学校、中学校、高等学校等にて47回、延べ1,362人に伝承

【関係事業】

- ・えひめ食農教育推進事業費：1,093千円



食文化普及講座

○久万高原における地域伝統食材の伝承を図る

【取組】

- ① 雑穀の生産振興を支援するため、現地実証ほを設置（2か所）するとともに、ブランドづくり推進会議（3回）で検討
- ② 雑穀を用いた、新たな商品開発及び販売を支援
- ③ 小学校児童等を対象とした、雑穀を用いた郷土料理講座を開催

【成果】

- ① ・雑穀栽培面積：230a〔R4年比：104%〕
・出荷者：17人〔R4年比：121%〕
- ② ・上浮穴高校や福祉施設と連携し、新商品を開発（4品）
・町内福祉施設が、地とうきび粉を用いたクッキー、マドレーヌ及びショートブレッドを一般販売
・道の駅みかわのレストランで、たかきびを代替肉として用いた「クーマカレー」をメニュー化
- ③ 小学校児童等に郷土料理を伝承（3品）

【関係事業】

- ・久万高原地域食材伝承事業費：1,271千円



飲食店での調理指導



クーマカレーの試食

基本施策 (3) 地域でつながるえひめ農業を目指します

施策の展開方向 ① 食と農の大切さを伝えます

具体的な推進事項 4 貴重な遺伝資源の収集・保存・供給・活用に努めます

○優良種苗の収集と保存、供給

【取組】

- ・「庄ダイコン」など地域伝承野菜の優良品種育成を行うとともに、農林水産研究所で育成した品種の原種生産を進め、許諾業者に配布

【成果】

- ・「愛媛緋」、「庄ダイコン」の原種を生産
- ・いちご「紅い雫」「あまおとめ」、水稻「ひめの凜」の優良種苗（原種苗）を生産し、許諾業者に配布
- ・さといも「愛媛農試V2号」、やまのいも「やまじ王」、そらまめ「愛のそら」の原種生産を行い、許諾業者に配布
- ・じねんじょの優良系統を保存 など

【関係事業】

【関係事業】

- ・農業試験研究費：32,623千円
（うち水稻野菜花き類の優良品種・種苗育成試験費：3,501千円）



愛媛農試V2号